

シーラ・ダン副センター長(右)から大学設備の説明を受ける視察団＝3日午後、米ワシントン州エバレット



各務原市視察団、米の大学訪問

航空技術者育成、連携を

短期留学実現見据える

【エバレット＝各務原支局・舌間隆博】各務原市と、各務原商工会議所に加盟する製造業者などをつくる米国視察団は3日（現地時間）、航空機関連産業の人材育成に関する連携協定を結んだワシントン州エバレットの州立大エバレットコミュニティカレッジを訪れ、今後の交流の発展を確認した。

エバレットは、米ボーイング社の主力工場があり、州立大はボ社や関連企業に人材を輩出するための技術教育を行っている。昨年11月に州立大と連携協定を結んだ各務原市は、市内の若手技術者が技術を学んだり、国際感覚を身に付けたりと、短期留学

に補助金を出すことなどを検討している。

視察団は、短期留学で有用な技術を学べるかどうかを現場で確認するため、各務原市の製造業者など14社や中日本航空専門学校（関市）をはじめ教育関連機関、市職員ら約30人で組織した。

この日は、製造工程を電子制御化する最新のメカトロニクスなどを教える高度人材教育センターを中心に視察。シーラ・ダン副センター長は、ボ社や関連企業が授業内容の決定に深く関

わること、企業側の求める人材を的確に育成できている実績や、多くのカリキュラムが実技の習得を重視していることなどを説明した。

また「（市が計画する短期留学に対応した）特別な教育プログラムを新設する用意もある。米国企業との交流も支援していきたい」と、前向きに受け入れる姿勢を示した。

4日は州立大を視察するほか、現地の川崎重工業幹部らとの意見交換会を行う。